

協議会だより

道東技術士協議会

『最近の大地震再考フォーラム』開催

はじめに

北海道技術士センター会員の皆様におかれましては、多忙な日々をお過ごしのことと拝察いたします。

さて、本年4月11日に帯広市民文化ホールを会場として『最近の大地震再考フォーラム』（主催：北見工業大学）が開催されましたので、その概要を報告します。

このフォーラムは、北海道技術士センターが共催し地元帯広で開催されたことから、当協議会においても㈱ズコーシャの星山技術士が中心となり会場の準備や受付などのお手伝いを行いました。

折しも当日の朝には、千葉県北東部を震源とするマグニチュード6.1、震度5強の地震が発生し、とてもタイムリー(?)なフォーラムとなりました。

最近の大地震再考フォーラム

日時：平成17年4月11日 13:00～17:00

場所：帯広市民文化ホール

このフォーラムでは防災計画や住民避難の専門家による講演や、行政担当者を交えたパネルディスカッションを通して、再び来るであろう大地震に備え、今何をすべきかを考え直すものです。

講演1

演題：中越地震：阪神の経験は活かされたか？
そして新たな課題は？

～土木学会・第二次調査団の報告より～

講師：家田 仁氏（東京大学大学院教授）

講師の家田教授は、平成16年10月に発生した新潟県中越地震の土木学会・第二次調査団長を務められ、その調査結果として、1) 自然斜面や土構造物の被害の多発、2) 新幹線営業列車の脱線、3) 低密度・高齢化地域の被災などについて講演しました。

このなかで、災害多発国であるわが国土の防災力向上には被災施設の現状復旧ではなく、重要度に応じた強化復旧が必要とのことでした。



写真-1 主催者挨拶（大島 俊之氏）



写真-2 家田 仁氏

近年、スマトラ沖地震や新潟県中越地震など、大きな被害を伴う大地震が頻発しています。

道東地域においても、平成15年9月の十勝沖地震を始め、幾度となく大地震が発生していることから、

講演2

演題：住民避難からみた津波防災の課題とその対策

講師：片田 敏孝氏（群馬大学助教授）

スマトラ沖地震や新潟県中越地震の調査に携わっ

た片田助教授は災害時の住民避難が専門で、1) インド洋津波被災地報告、2) わが国の防災の課題、3) 災害をめぐる行政と住民との関係、4) 災害リスクコミュニケーションのこれから、について講演しました。

地震による津波被害が過去に何度も発生している三重県尾鷲市の調査報告では、避難情報を取得した後避難するまでの所要時間による犠牲者数を予想するシミュレーションが紹介され、そのリアリティーさに地震発生から避難するまでの1分1秒の大切さをあらためて考えさせられるものでした。



写真-3 片田 敏孝氏

パネルディスカッション

テーマ：来るべき地震に備え、何を、どうする

パネリスト：家田 仁氏（東京大学大学院教授）

片田敏孝氏（群馬大学助教授）

佐藤昌志氏（北海道開発局 建設部
道路維持課課長）

大島俊之氏（北見工業大学教授）

コーディネーター：高橋 清氏

（北見工業大学助教授）



写真-4 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、大島教授が「十勝を含めた道東は酪農が盛んであり、地震による断水は大量の水を必要とする畜産業にも大きな影響を与えるため、井戸水の活用が重要」と話し、佐藤課長は「防災は行政任せではなく、住民も一緒に考える必要がある」と協働での防災への取り組みの必要性を訴えました。



写真-5 北見工大の液状化の模型実験

おわりに

近年多発する地震災害に対する一般市民の防災への意識の高まりをものがたるように、今回のフォーラムには定員を上回る約500人の方が参加し、今後の防災について考えました。

このフォーラムは、帯広、釧路、北見の3都市において今年から年1回、順次開催される予定で、当協議会としてはオホーツク技術士協議会との連携により、今後とも出来る限り応援したいと考えています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士協議会の報告とさせていただきます。

（文責：道東技術士協議会幹事 上野 博司）